

# 平成24年度 【 学園研究費助成金<B> 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ みやした とあり  
氏名 宮下 十有

研究期間 平成24年度

研究課題名 映像メディアによる小学生の記憶と記録～椋山女学園附属小学校における建物の記憶の定着と共有

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	宮下 十有	文化情報学部	講師
研究分担者	亀井 美穂子	文化情報学部	准教授
研究分担者			

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

2012年度をもって椋山女学園大学附属小学校は設立60周年を迎え、現在の校舎から来年度は新校舎へ移転する。小学校は、学園にとってももちろん、地域にとっても、歴史ある建築物として存在している。小学校の「建物の記憶」を小学生自身によって記録し、その思い出を共有することで、小学生が日常生活を営む場として、校舎が意識化され、アイデンティティが形成されていくのかを明らかにする。具体的には小学生にデジタルカメラを利用してビジュアル化し記録し、それを語るワークショップを行う。そこで小学生にとって日常生活の空間認識を見直す。

## 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

先行研究の調査と比較：慶應義塾大学をはじめとする学校のビジュアル化と記録、保存、活用等、今後の利用の展開を検討する上での調査と比較する。  
ワークショップの実施と評価：小学校の土曜講座後の時間を利用して、有志によるワークショップを3回実施（2012年6月30日、7月14日、2013年1月26日）。デジタルカメラの扱い方と、見取り図作成、発表と思い出共有の作業を通して、記憶の記録、日常空間、建物の再認識がどのように行われるか観察、調査、分析を行う。  
展示：ワークショップの成果物をパネル展示できるよう加工し、活用提供できるようにする。新設小学校、また次年度以降に予定されている付属高校のメモリアルルームに提供する予定である。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

椋山女学園大学付属小学校が新築され、それに伴い現校舎を利用する小学生は今年度までである。

現校舎を、その場で学校生活を送るものとして記録できるのは、今の在校児童のみであり、毎日見ている景色にデジタルカメラを持ち込むことで、改めて「これからものこるもの」や「思い出」「想い出」「記憶」を意識しながら、撮影をすることが可能であると想定された。

今回は「建物」「学びの空間」「生活の空間」としての小学校を、小学生自身が映像メディアをつかって切り取る事により、これまで使い手によって記録されてこなかった「建物の思い出」をビジュアル化する。

ワークショップでは、小学校の教育指導において近年重視されている「言語表現活動」にたいして、映像の面から新たな経験をすることで、支援できるものであると考えられる。ワークショップは2012年6月30日、7月14日、2013年1月26日に開催し、子どもたちによる記録の地図が制作された。

異学年によるグルーピングを行い、上級生と下級生のペアリングを行った上で、子どもたちが主体となるデジタルカメラでの撮影を行い、校地・校舎内地図を制作させた。1回目は、思い出になるもの、2回目は移転しても変わらないもの、3回目は移転しても変わらないものと冬の季節を意識するものをテーマに撮影を行い、地図を作成した。地図から、彼女たちの小画工の象徴として、メタセコイアの木が強く意識づけされていること。また、学校生活の中での教室、図書館、体育館など、日常的な空間の意識が高いことが分かった。

また、成果物である地図を15枚のパネル(A1サイズ1組、A3サイズ2組)に集約して、展示資料として再利用できるよう加工、制作した。これらのパネルは新校舎などでの展示も可能であり、また歴史文化館、および将来的に設立されると構想されているメモリアルルームの資料としての提供する事ができる

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①情報教育	②メディア教育	③児童の空間認知	④ワークショップ
⑤映像利用	⑥メディアコミュニケーション	⑦建築情報	⑧視覚情報

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

3月に発行される渡邊毅先生退職記念本にて本研究に関する論文が掲載される予定である。(宮下十有 「子どもたちの記憶と写真 椋山女学園大学附属小学校ワークショップ『私の過ごした小学校』から」 中部日本教育文化会)

また、子どもたちが制作した『私の過ごした小学校』マップは、A1パネル、およびA3ラミネートにして、展示可能なものに加工。小学校の記念行事、および椋山歴史文化館にも提供する予定をしている。

今後は、新校舎での学校生活を送る子どもたちに対して、同様のワークショップを行い新校舎の魅力を発見し、新校舎の魅力を記録するマップなど制作するワークショップの企画、実施を検討している。